

近畿大学理工学部 学生員 ○中村 高彰

近畿大学理工学部 正会員 久 隆浩

1. はじめに

国はハートビル法、交通バリアフリー法の施行、地方自治体ではまちづくりプランに福祉の考えを取り入れた条例の制定、市民は福祉のまちづくりを主体としたNPOやボランティアへの参加を行い、徐々に福祉に関する意識が向上し、日常生活の中でのバリアフリー化、ユニバーサルデザインの導入が行われている。

高齢社会を迎えるに当たり、福祉のまちづくりへの対応が求められている。さらに、高齢者をはじめとした自由裁量時間の増加とともに余暇活動の過ごし方に注目が集まっているなか、社寺仏閣の参拝もさかんになると思われる。しかし、社寺仏閣には階段や坂など様々なバリアが存在し、しかも、従来のバリアフリー手法では社寺の伝統的木造建築美や努力して本殿に辿り着く達成感といった社寺仏閣特有の個性が失われてしまうなどの問題点も指摘できる。そこで本研究では、日本有数の観光地として栄える京都市域を事例として取り上げ、社寺仏閣にふさわしいバリアフリー手法を考える。

2. 研究方法

京都には、既に高齢者や身障者の方々のために、社寺仏閣とその交通経路などのバリアとその対応策を紹介しているガイドマップが存在する。今回、自身が車椅子生活者である村田孝雄氏が代表となって実際に社寺仏閣を見て回って検証しつつ作成した「車いすでもまわれる京都観光ガイド」(図-I)の記事をデータとして用いる。取り上げられている事例から個所ごとのバ



図-I 車いすでもまわれる
京都観光ガイド

アとその改善策等を分類しデータベースを作成する。また、同氏へのヒアリング調査を行うとともに、実地調査を行いユニークな事例の抽出とともに資料からは見えない項目において、状況をより詳細に分析し今後の対応策を考察する。

3. ヒアリング結果

まず、村田氏としては景観を無視してまでバリアフリー化を望まない。しかし景観を阻害するという理由でバリアフリー化を拒否されることもあるが、本当にそれが本来の理由であるかどうか分からないとの不信感を抱いていると言われていた。また、社寺の参拝などでは、介助者に迷惑がかかることを考えると遠慮してしまうことが障害者の方には多くあるということがわかった。

4. 社寺仏閣におけるバリアフリーの現状

データベースを作成し分析を行うと、出入口周辺では階段がバリアとなっているところが多くあることがわかった。階段のバリアフリー対策に着目してみると、図-IIからわかるように迂回路を使う改善策が49%を占めていた。次にスロープを設置しているところが15%ある。スロープ設置については景観面で問題となる場合があるのではないかと考えて現地調査を行った。その結果、スロープとなっているのは車用に既に作られている物がほとんどであった。唯一北野天満宮だけ

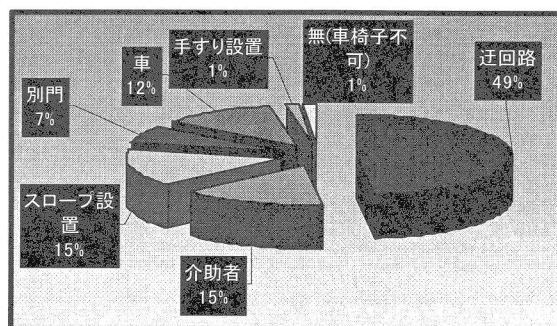


図-II 出入口における階段に対する改善策(n=73)

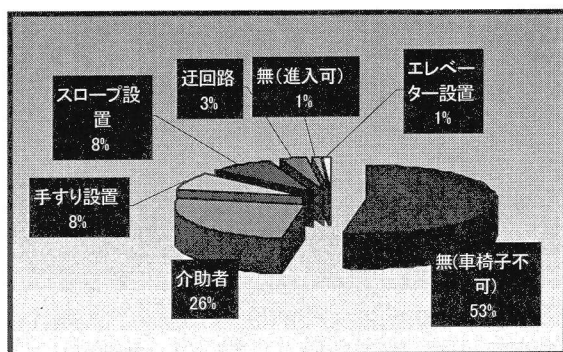


図-III 建造物と周辺の階段に対する改善策 (n=89)

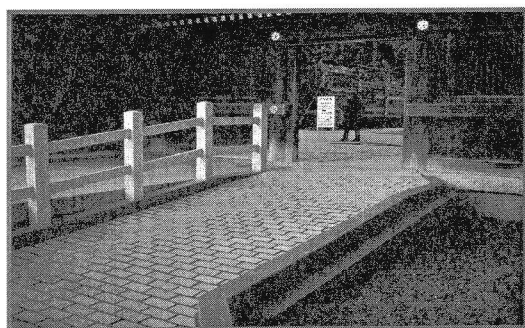


写真-I スロープ設置(北野天満宮)

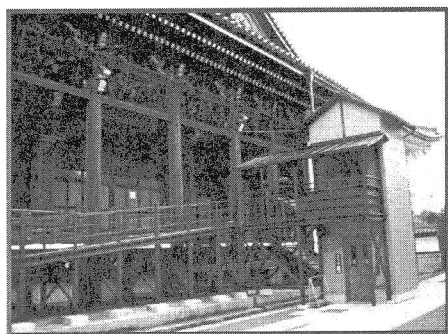


写真-II 材質にこだわったエレベーターとスロープ
(西本願寺)

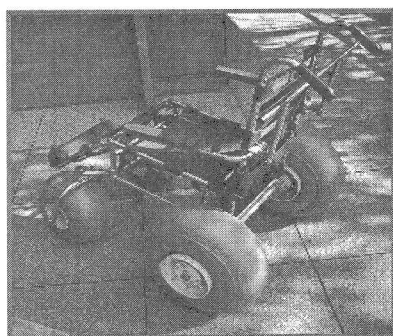


写真-III バギータイプ車イス(平等院)

が歩行者用にスロープを設置していた。(写真-I)このスロープは色や材質を周辺の環境に適するような配慮がみられた。

次に本堂、本殿、その他建造物内部とその周辺におけるバリアの種類と改善策をみると、出入口同様階段がバリアとなっているところが多くあることがわかった。先ほどと同様に階段に着目すると、図-IIIのように半数以上が進入できない状態である。その他の改善策でごく少数ではあるがスロープやエレベーターを設置しているところを現地調査より発見した。(写真-II)これらは材質や設置場所にもこだわっているものであった。しかし大規模な物が多く、設置する費用などに問題があると思われる。その他ユニークな事例としては、多少の段差でも通行可能なバギータイプの車椅子貸出しを行う事などがみられた。(写真-III)

5. まとめ

今回の研究で、社寺仏閣で様々なバリアフリーへの取り組みがなされているが、場所ごとに傾向が異なっていることがわかった。例に取ると、出入口ではほぼすべての社寺で進入ができる。しかし建造物では進入できないところが多くあった。しかし、先程述べた新しい手法などを使えば進入出来るのではないかと考えられるところもある。データベース構築等によって事例が公開されれば、それを参考にして社寺仏閣のバリアフリーは促進されるのではないかと考えられる。

現地調査でスロープを設置している社寺では車椅子の方や足の悪い高齢者の方々が使用しているのをよく見かけその必要さを感じたが、階段の横などにスロープを設置している社寺仏閣では景観の面で配慮が必要と感じた。また、迂回路などは確かに社寺へのアプローチを容易にするものであるが、参道の空間的演出による本殿への到達感を感じることができなくなるなど、さらなる工夫が必要であると思われる。

参考文献

- 1) ぬくもりの会・編：車イスでまわれる京都観光ガイド，汐文社，1995。
- 2) 車いす，シニアにやさしい京都巡り：株式会社ユニプラン，1999。